

Connectivityの背景・概念・課題

WICI Symposium 2014

Presenter:
三代まり子



3つのQuestions

Q1 IIRCは**なぜConnectivity**のBPを準備しなければならなかったのか？

Q2 Connectivityの概念を導入することにより、**何を達成(実現)**しようとしたのか？

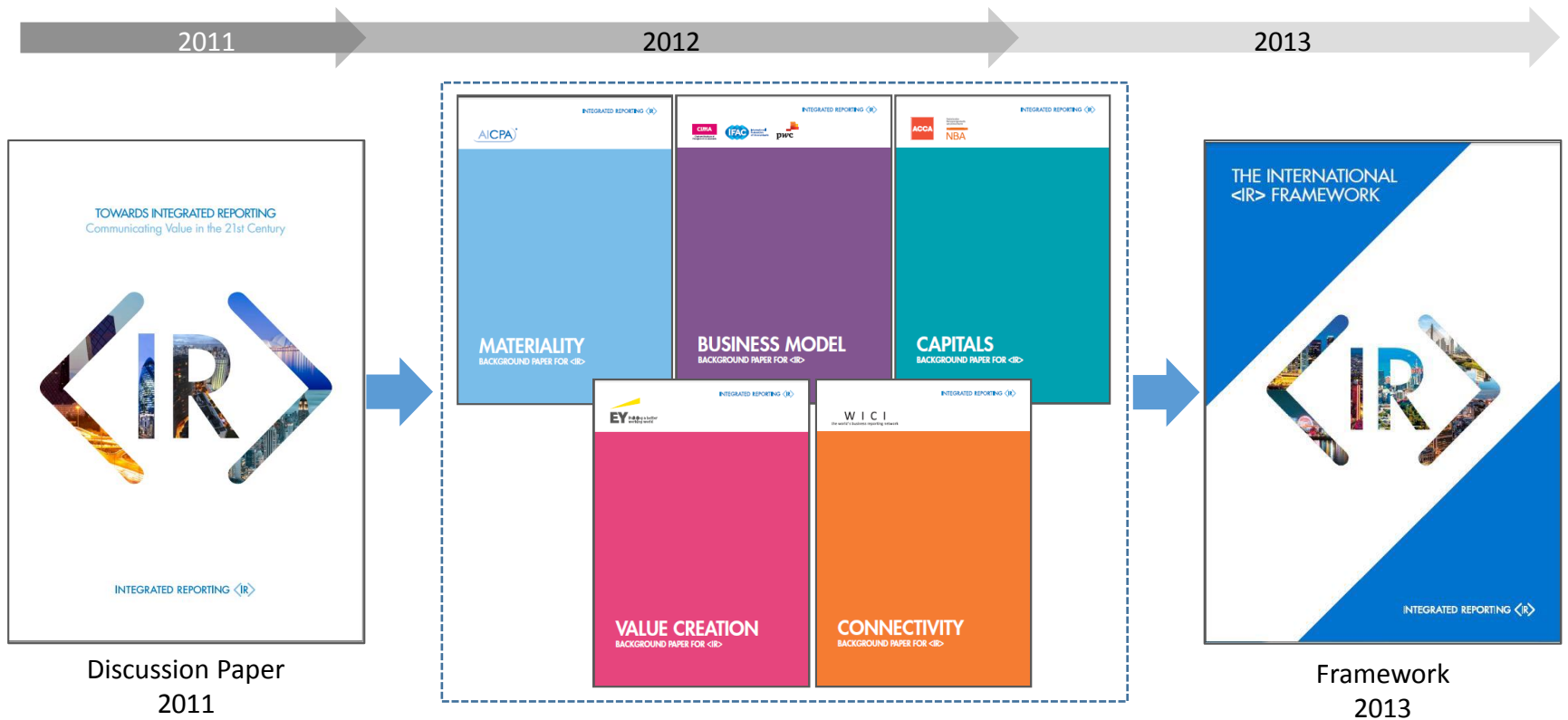
Q3 ConnectivityのBPで、どこまで成し得たのか、**今後の課題**として何がのこされたか？

BP : Background Paper

Q1

IIRCはなぜConnectivityのBPを準備しなけりばならなかつたのか？

最終フレームワークに向けたより深い議論のベースとして Background Paperを作ることが決定



ディスカッションペーパーに対して世界から214のコメントが寄せられ、そのコメントの分析を基に、マテリアリティ(重要性)、ビジネスモデル、様々な資本、価値創造、そしてコネクティビティといった5つの最も重要な論点が特定された

ディスカッション・ペーパーにおける結合性の定義

(2011年9月)


【情報の結合性】

統合報告書は、組織のビジネスモデルと組織に影響を与える外部要因の様々な構成要素、及び組織とその業績が依存する様々な資源との関係が、どのように結合しているかを示す。

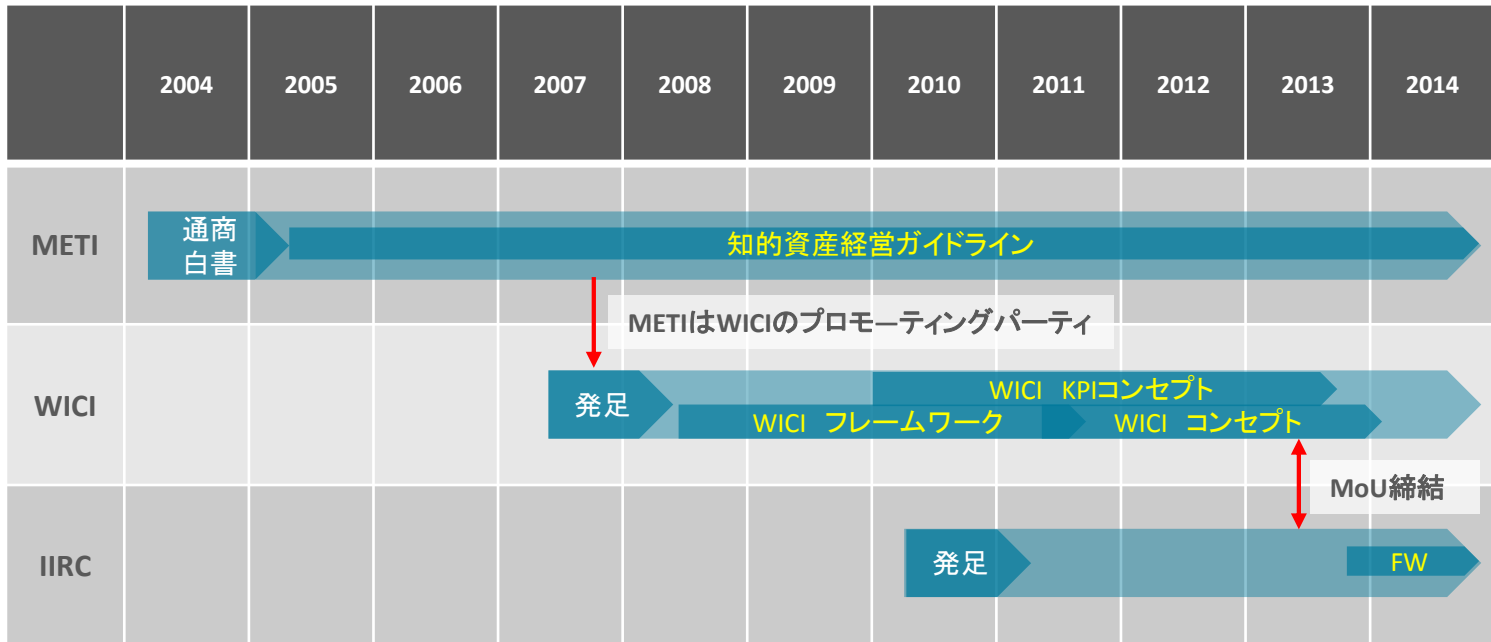
(ディスカッション・ペーパーより)

【課題】

- 価値創造についての全体像 (holistic picture) を提供することの重要性が強調されていない
- 結合する対象についても、財務情報と無形資産のつながりや、時間軸のつながりなどが明確ではない

 Connectivityに関しては、価値創造や無形資産に焦点を当ててきたWICIがメインの協力団体として選定された

WICIとIIRCの関係



METI:経済産業省
 WICI:世界知的資本イニシアチブ
 IIRC:国際統合報告評議会

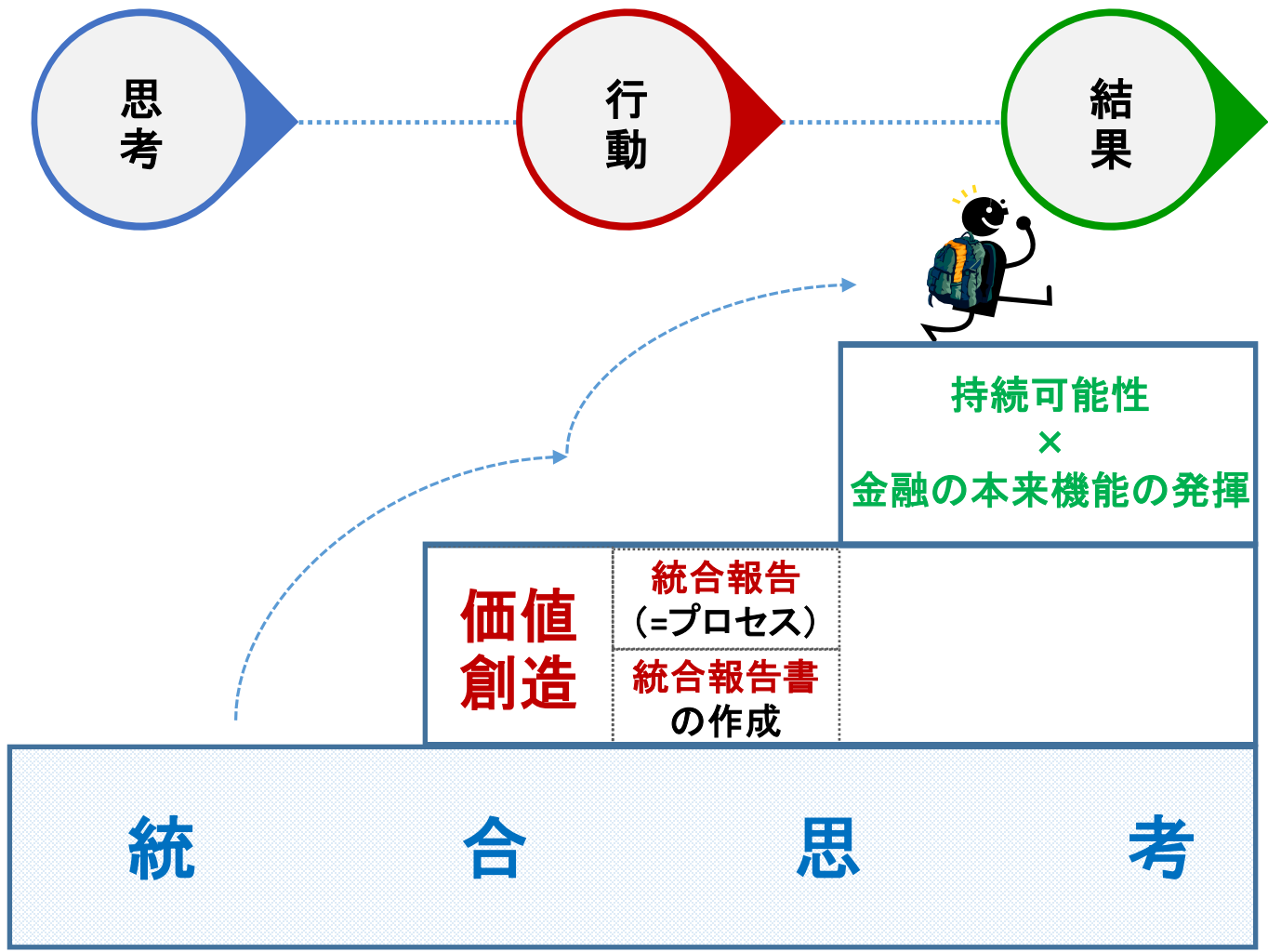
FW:国際統合報告フレームワーク
 MoU: Memorandum of Understanding

報告原則の共通性

知的資産経営ガイドライン (基本的な原則)	国際統合報告フレームワーク(IIRC)の開示原則						
	戦略的焦点 と 将来志向	情報の 相互結合性	ステークホルダー との諸関係	重要性	簡潔性	信頼性と 完全性	一貫性と 比較可能性
①経営者の目から見た 経営の全体像 を ストーリー として示す。	✓	✓					
②企業の 価値 に 影響 を与える将来的な価値創造に焦点を当てる。	✓			✓	✓		
③ 将来 の価値創造の前提として、今後の不確実性(リスク・チャンス)を中立的に評価し、それへの対応につき説明する。	✓						
④株主のみではなく自らが重要と認識する ステークホルダー (従業員、取引先、債権者、地域社会等)にとって理解しやすいものとする。			✓				
⑤ 財務情報 を補足し、かつ、それとの 矛盾 はないものとする。							✓
⑥ 信ぴょう性 を高めるため、 ストーリー のポイントとなる部分に関し、裏付けとなる 重要な指標(KPI) などを示す。また内部管理の状況についても説明することが望ましい。時系列的な 比較可能性 をもつものとする。						✓	✓
⑦事業活動の実態に合わせ、原則として 連結ベース で説明する。						✓	

住田孝之氏「統合報告の動きとWICIの活動」(2013年10月)を基に作成

Q2 Connectivityの概念を導入することにより、何を達成(実現)しようとしたのか？



- 統合報告を通じたIIRCの究極的な目的は「持続可能性」と「金融の本来機能の発揮」の両立。
- この究極的な目的のためには、経営において統合的思考をベースに価値を創造すること、
- また創造した価値についてのコミュニケーションである統合報告を行い、統合報告書として伝達していくことが必要。

統合的思考

①重要性 (WHAT)

“重要性 (Materiality)とは登山用リュックの荷詰めに似ている。
極めて重要なものだけを持っていくことができる。
そうしないと、重みでペースを落とし、
最終的には動けなくなってしまう。”



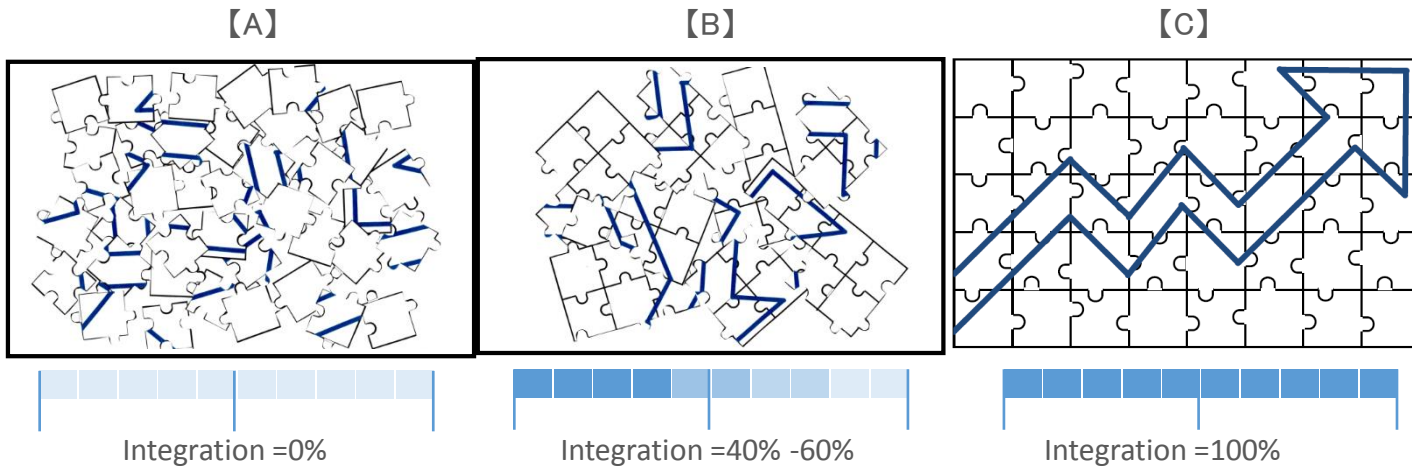
BY:
GARY NIEKERK
DIRECTOR, GLOBAL CITIZENSHIP
INTEL CORPORATION

②結合性 (HOW)

- Materialな要素をどの順番でどのように組み合わせて使い、ゴール(価値創造)に至るか
- 重要なものごとのつながり、配分方法を明確にする

どのような観点から？ ➡ 各企業の**固有の価値創造の観点**から

情報のConnectivity



Connectivityがあることにより、企業の「これまで」と「これから」における重要な部分に光が当たり、「価値創造への道筋」が明確になる

Q3 ConnectivityのBPで、どこまで成し得たのか、今後の課題として何がのこされたか？

従来型の開示と統合報告における開示の違い

従来型の開示

Tick the box型の開示

= 外部からの「要求項目」に限定した開示

= 列挙

= ステレオタイプ

(お仕着せ)の数字(指標)
(それぞれの企業にとっての重要性は不明)



機械的な比較可能性

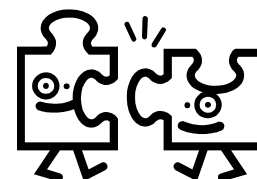
統合報告における考え方

Storyとして開示

= 原則主義*に基づく「要求事項」について、企業の価値創造の観点から重要と考えられる項目の関連性を開示

= 「つながり」

= 各社固有のKPI



一定の比較可能性 + 独自性

*原則主義: 組織が開示する内容を判断するときの考え方や枠組みだけを示す方法。
(開示する項目について、企業価値創造の観点から企業の選別が求められる。)

Connectivityの論点



1. **組織内**の各部署間における結合性
2. 価値創造の全体像を示すための**情報**の結合性(①全体像、②詳細情報)
3. 企業の価値創造についての**情報利用者**との結合性

今後の課題

Connectivityの**実践**

【WICI 価値創造ドライバー分科会】

- ・3Mジャパン株式会社をケースに**ストーリー化**
- ・ロジックツリーによる**KPI**の関連性の可視化

【WICI XBRLタクソノミ検討分科会】

- ・株式会社ワコールホールディングスをケースにWICIのフレームワークをタグ付け。
- ・開示項目間の結合性、比較可能性、**一貫性**について検討

更に・・・

- Connectivityに関するベストプラクティスを積み重ね
- 企業活動、コミュニケーション、対話をサポートしていく体制の構築
- 利用者側のConnectivityに対する理解力・読解力